＜一部写真は赤穂市の提供＞

色彩豊かに輝く魅力

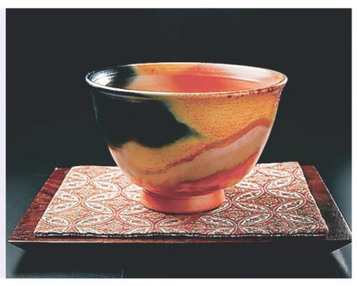
ふるさとの光 発見プロジェクト 7紙連携企画 in 赤穂市

神戸新聞社をはじめ西日本の7地方新聞社が連携し、地域資源や魅力を発掘し、発信する「ふるさとの光」発見プロジェクト。今回は兵庫県赤穂市が舞台です。「訪れるたび、心とからだがととのうまち、赤穂」をメインテーマに、同市ゆかりの選定委員4人が選んだ「ふるさとの光」は16件。その中から5件をみなさまにご紹介します。

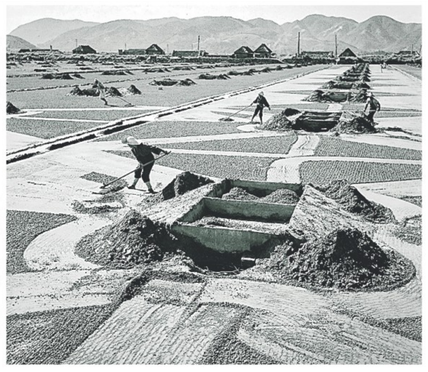
赤穂御崎の四季折々の景色が一望できるオープンガーデン

■ 桃井ミュージアム

土井さんが絶景ポイントとして紹介する、御崎地区にある桃井ミュージアム。赤穂御崎の四季折々の景色を一望できるオープンガーデンには、支配人自ら手掛けたフォトジェニックなブランコや展望台などがあります。施設内には兵庫県伝統的工芸品に指定された「雲火焼（うんかやき）」が所狭しと並びます。雲火焼は幕末に大嶋黄谷が創出し、陶土も焼成方法も不明で幻とされていたものを復元したもので、赤穂の夕景を思わせる幻想的な美しさがあります。また赤穂緞通（だんつう）のアンテナショップもあり、赤穂の伝統工芸に触れながら、ぜいたくな時間が味わえます。



兵庫県伝統的工芸品に指定されている「雲火焼」の茶碗



昭和20（1945）年ごろの入浜塩田の様子（山本正一氏提供）

■ 日本遺産・赤穂の塩

野中さんが生活と切り離せないと語る赤穂の塩は「『日本第一』の塩を産したまち　播州赤穂」として2019年に日本遺産に認定されました。瀬戸内の穏やかな海と気候に恵まれ、中国山地の良質な砂でできた千種川の干潟では、江戸時代に生産性の高い大規模な入浜塩田での塩づくりが進み、その技術は瀬戸内海沿岸に広がり、蘭学者・司馬江漢が「赤穂塩、日本第一なり」と記すほど品質も高く、全国に名をはせました。千種川を挟んで東浜の塩田では、にがりを含んだ伝統的な差塩（さしじお）、西浜ではにがりを除去した上品な味の真塩が生産され、日本の食文化に大きな影響を与えました。今年は東浜塩田の開発から400年となります。

1971年に塩田での製塩は廃止されますが、消費者の強い声を受け、「赤穂化成」が「にがりを含んだ塩」を作り、伝統の味わいを守り続けています。同社は2022年３月、伊和都比売神社の境内に「ＡＭＡＭＩ　ＴＥＲＲＡＣＥ」を開業。海の食材の魅力発信や、味噌（みそ）や塩、梅干作りなどのワークショップを開催し、併設するカフェでは赤穂の塩を使ったランチやスイーツを提供しています。

食に関するワークショップとカフェを併設した体験型スポット「AMAMI　TERRACE」

■ 赤穂緞通

野中さんが紹介するのは、赤穂の塩田で働く女性の副業として生まれた赤穂緞通（だんつう）です。明治時代初期、児島なかという一人の女性の手により誕生し、鍋島（佐賀県）、堺（大阪府）と並び、日本三緞通と称されています。握りばさみ一つで技術と根気を要する「摘み」の技法を用いることで、はっきりとした文様と型崩れしにくく丈夫な仕上がりを実現しています。１９９１年、技術が途絶える危機を迎えますが、赤穂市教育委員会が伝承に努めたことで息を吹き返し、現在は市内で約20人の女性が伝統を守り続けています。

赤穂緞通の工房。現在約20人の女性が伝統を守り続けている

赤穂緞通の作品。はっきりとした文様と型崩れしにくく丈夫なのが特長

「ふるさとの光」発見プロジェクトの詳細や、その他の赤穂市の「ふるさとの光」はこちらでもご覧いただけます

■ 赤穂温泉

赤穂に来て「ふるさとの光」をゆっくり楽しんでいただくならば、宿泊がおすすめです。赤穂市御崎地区の播磨灘に面した海岸沿いの高台にあるのが赤穂温泉で、ミネラル成分を多く含む優れた泉質から、「よみがえりの湯」とも呼ばれ、空と海を見渡せる絶景とともに人々に喜ばれています。ナニワのカリスマ添乗員として全国を旅した平田さんも太鼓判を押す温泉です。

播磨灘を見渡せる「赤穂温泉」。「よみがえりの湯」として人気

選定委員のみなさん

公益社団法人ひょうご観光本部 事業推進部長	関西福祉大学 教育学部准教授	赤穂化成株式会社 AMAMI TERRACE担当	赤穂観光大使（日本旅行）
土井（どい）　友美（ともみ）さん	金子（かねこ）　美里（みさと）さん	野中（のなか）　香映（かえ）さん	平田（ひらた）　進也（しんや）さん

酒造りの道具や廻船業の資料を展示している「奥藤酒造郷土館」

■ 奥藤商事

金子さんおすすめの坂越アルプスから見渡せる坂越の港町にあるのが、酒を愛する野中さんも応援する奥藤商事です。江戸時代に廻船（かいせん）業で財を築き、慶長６（1601）年から酒造りを始めた奥藤家は、赤穂藩の御用酒屋も務めたといわれる赤穂唯一の酒蔵。ここで造られる「忠臣蔵」や「乙女」は力強い味わいで、千種川の水と播磨の酒米などを使用し、この町にふさわしい酒を醸し続けています。敷地内の奥藤酒造郷土館は、酒造りの道具や廻船業の資料を展示しており、無料で見学可能。現在の奥藤商事は、白壁や焼き板、石畳が連なる風情ある坂越大道沿いにあり、周囲の町並みとともに歴史的景観を形づくっています。

白壁や焼き板、石畳が連なる「坂越大道」

【主催】「ふるさとの光」発見プロジェクト実行委員会（構成＝北國新聞社、福井新聞社、京都新聞、神戸新聞社、山陽新聞社、中国新聞社、西日本新聞社）　【特別協賛】ＪＲ西日本　【協力】赤穂市